



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

農芸班が梅の文化を引き継いでいます



梅の実取り

梅雨の晴れ間を縫って、立派な梅は当会自慢の昔ながらの梅干しに、はじかれた梅は夏の作業の合間に喉を潤す梅ジュースに、余すところなく使います。夏の初めは田んぼも畑も農繁期。太陽と雨の恵みが交互に施されますように。

お知らせ

夏休み
イベント

子ども里山体験

7/26(水) 14:00~20:00

(公財) 鎌倉市公園協会協働開催

対象 小3~6年生 15名

谷戸しごと・竹細工・かまどで
夕ごはん作りなど昔ながらの
暮らしの体験をします。

詳細は広報かまくら7月1日号に
掲載し、(公財) 鎌倉市公園協会にて
申込受付を行います。

山崎の夏まつりに参加 7/23(日)

地元の伝統的なおまつりで、4年ぶりに御輿の渡御が行われます。当会から毎年、御輿の屋根の上の鳳(おおとり)にくわえさせる稲の提供と、担ぎ手として参加しています。



今、生態系の節目を感じています。以前からカタツムリなど身近な生きものが少なくなっていますが、今年はスズメやツバメ、田んぼのシオカラトンボまでが減っています。谷戸のホタルはいるものの、ホタルを取り巻く生きものが姿を消し始めました。夕空に舞うコウモリが全く見られなくなりました。初夏の夜、ジーと鳴くキリギリス（クビキリギス）も今年あまり耳にしません。これほど少ない年は初めてです。数年前からじわじわとクモが減っており、ヤマシロオニグモなどは絶滅状態です。今までは、環境（植物）を守れば自然を守れると思っていましたが、谷戸の環境（植物）は健在なのに、なぜか昆虫や小動物が減少しているのです。今まで少しずつ蓄積されてきた化学物質のようなものが、臨界点を超えてしまい、いよいよ影響が出始めているのかもしれない。カルガモなど天敵の生態が変化しているのも原因でしょう。

●田んぼの土手を彩るチダケサシ

田んぼの土手だけにある野草、それがチダケサシです。市内ではほとんど見られなくなった野草です。田植えが終わったころ、6月下旬から7月半ばに桃色～白の花穂を咲かせます。その見事さは園芸種かと思間違えるほどです。チダケサシとは、「キノコを刺す」という意味だそうです。チダケサシの花穂をさわってみると硬くてざらざらしており、キノコを刺しやすく滑り止めにもなりそうです。昔の子どもたちがキノコ（キクラゲなど）をチダケサシの穂に



刺して持ち帰ったのでしょう。田んぼの土手には昔からたくさんあり、散策路側にも増えてきています。宿根草なので何年も根が生き残ります。谷戸のチダケサシは、35年くらい前に見つけた場所で今も咲いています。急に増える草ではありませんが、樹木のように寿命が長いようです、かつて谷戸が公園になる前の時代、このチダケサシを大量に盗掘しようとした人たちがいました。その場で話し合い、植え戻させましたが、一抱えほども大量に掘り盗っていたのには驚きました。田畑の土手にある野草は何十年も生きますが、作物の周りに生える雑草のようには簡単には生えませんが、大切に見守りたいと思います。




コチャバネセセリとチダケサシ 7月

各班のお知らせ

田んぼ班

苗の成長具合を心配し、雨の具合が読めずしろかきや田植えにちょうどよい水位を保つことに苦労しましたが、ようやく田植えまで終了しました。7、8月は、田んぼに次々生えてくる草との闘いです。



 6/10 田植え

畑班

今年はさつまいもの苗の成長が遅く、予定の苗植えができずに苗を購入する苦渋の選択。6月になってようやく苗取りができるまでに成長した。つる返しをしっかりとやって収穫量が倍返しとしたい。


雑木林管理班

田植えが終了し、土手の手入れから活動を再開しました。土手を含む谷戸の草木および雑草は、梅雨にかけて元気いっぱいになりました。そのエネルギーに圧倒されめよう、作業に取り組みます。


自然遊び班

「父と子の里山体験」かなへびがいてたのしかった。(1年) 田うえが楽しかったけど、ザリガニがいてこわかった。わらでむすぶやつもできるようになった。(6年) しゃべるでたがやすことがたいへんだった。(1年)



 6/18 里山探検隊



 6/14 保護ネット片付け

生態系保全班

オタマジャクシの保護ネットを外しました。ネットを片づける作業は張るより大変です。重たいので、みんなで力を合わせながら外していきます。苦労してもオタマジャクシを見ると嬉しくなります。

農芸班

収穫した梅を一粒一粒丁寧に下処理をして、塩に漬けました。去年も参加の方から自家製梅干し作りの話を伺い、活動を通して手作りを楽しむ方が増えることを嬉しく思いました。次回は自生の赤ジソを仕込みます。

植物育成班

会員が育苗してくれたオクトラオノが咲きました。野草は野菜と違い発芽まで時間がかかり成長もゆっくりです。焦らずじっくり観察する忍耐力が必要です。カナムグラの除去も引き続き行っていきます。

谷戸の生きもの

シラホシカミキリ 食痕（しょっこん）頼りに・・・

ガマズミやヤブデマリの葉に見られる独特の食痕。シラホシカミキリの成虫が食べた痕だ。これを“後食”と書いて、“こうしょく”と読むが、PCの辞書にはないから単語登録をしないと“好色”と変換されるから注意が必要だ。小段谷戸のウツギにも同様の食痕があったので探したら、やはりシラホシカミキリが見つかった。谷戸の植物をよく見るといろいろの食痕だらけなのが分かる。その主を想像し、探すのも谷戸の楽しみ方の一つだ。それにしてもこのカミキリ、体長1cm程度と小さいが上品で美しい。

（たのくろまめお）



食痕（ヤブデマリ）



シラホシカミキリ

コフキゾウムシ 野外生活体験広場で・・・

クズの葉に見られる独特の食痕の主。周囲をすべて食べられて観葉植物のようにになっているものも。谷戸中にはびこるクズからして個体数は数千？数万？か。クズ以外にもマメ科ならいけるようで、谷戸の重要作物かつ私の名前の由来でもある“たのくろ豆”に大量発生した場合は駆除が大変だ（方法は想像にお任せね）。集団でいると警戒心も羞恥心も薄れるのか昼間から平然と交尾している。野外生活体験広場ではヤブマメに多くの個体が集まってまさに“体験中”だった。

（たのくろまめお）



食痕（クズ）



谷戸往来

鎌倉レンジャーズ5/21(日)

都会から若者がやってきました。エブリを使って昔ながらの田んぼ作業を体験しました。



山崎小苗取り 6/14(水) 山崎小学校の清水谷戸の田んぼに植える苗(うるち 2000本、もち 1500本)を提供しました。6/14午後、生徒15名、先生、PTAが小段谷戸の苗代の泥の感触を楽しみつつ、苗取りをして持ち帰りました。豊作を祈ります。

小段谷戸の泥掻き出し作業

小段谷戸の体験学習田は膝上まで泥ができていました。体験学習スタッフに協力してもらい、バケツに何百杯も泥を掻き出し、少し浅くなったような気がします。

青空自主保育なかよし会谷戸保全作業 湿地復元 6/25(日)

この日ばかりは子育て仲間と思いきり泥んこになれる人気の作業。アシを抜いて水面が現れると飛んでくるトンボの姿に癒されます。



体験学習

富士塚5年 田うない 5/1

★最初は「ふくはよごさないように」ということと「くも、きもちわるい、ふれたくない」とそればっか考えていたけれど、なれてくるとそんなことどうでもよくなって草取りに集中できて、あっというまにキレイになりました。

★足を入れたとたんに「ずぼ」という感じで、田の中に入りました。足のひざぐらいまでどろがついてしまい、そこまでのところがチョコレートをつけたように見えました。

深沢小5年 田うない 5/2

★ひさしぶりにどろに入った気持ちは、気持ちよかったです。ねっことかを抜くのが楽しくて、後、どろとかをちゃんとおとして土を大切に使っているんだなーと思いました。

★ざっそうはくきだけ折れたり、どろが足にくっついてすごく重かったので歩くだけでもすごく大変でした。お米を作るのには時間がかかるし、大変なのでお米を残したりしたらだめなんだと思いました。

教育支援教室ひだまり 自然体験 5/31

★土を掘ったら見たことがない虫が出てきたり、大きいムカデとか蜘蛛とかがでてきて内心驚いたけど、自然をちゃんと感じる事ができました！あと、次の日腕が軽く筋肉痛になりました。（中3）

深沢小5年 田植え 6/6

★昔はこれがあたりまえだけど、今はきかいたよって、昔の人はこんなにたいへんだっただなーと思いました。次に行くときにどれくらいせいちょうしているかたのしみです。

★いやあ～楽しかったあー！いいけいけんになりました！田植えてあんな感じだったんだね！ぼくたちが食べるお米は。あんな大変なことをしてぼくたちの所にやってくるんだってことが分かったよ！

★田うないでは、田んぼをぐるぐる回りながら、草を引っこめきました。草についているどろを落とすのが大変だったけれど、どろをふむのがとても楽しかったです。全力で田うないの作業をがんばれたのでよかったです。

★いざ泥の中にはいると、中は冷たくておどろきました。虫は苦手だけど何種類ものくもがいて、何ていう名前かしらべたくなりました。



★田うないをしているときたくさん生きものにあえました。谷戸歩きをしているとき、鳥の声や虫のなきごえがきこえてきました。谷戸には生きものがたくさんいて、その自然をいかしてむかしから人とものが共存してくらしてきた、大切なばしょなのがよくわかりました。

★初めて田うないをやってみて思ったことは、まずはいるとき、どれくらい深いのか分からなかったのでもちよっとこわかったのですが、入ってみたら気持ちよかったです。だんだんなれてきてスムーズにざっ草を抜きました。

★土を耕したときに、色々な生き物が出てきたり、木のブランコで遊んだり、崖登りをしたり、日常的にあまり外で遊ぶことがないのでとても貴重な体験だった。（中3）

★畑仕事もおもっていたより楽しかったので、前から農家などに興味があったので、虫を少しは克服出来た今ならなれるかも！と思いましたが少し興味が湧きました。（中2）

★田んぼははじめのころよりスッキリしてて、あるきやすかった。田植えは、いねを植えるところに立っちゃうと植えられなくなっちゃうから、いねを植えないところに立つのがむずかしかった。

★田んぼものさしを目印にして「いね」を植える。この植えるさぎょうをていねいにしないと、お米になるまでにうまく成長できない。



7月

- 1日(土) 生 夜の自然パトロール ❖
 2日(日) 田 田の草取り、苗床片付け ❖
 雑 土手保全のための草刈り ❖
 青空自主保育にこにこ会保全活動
 3日(月) 畑 にんじんの種蒔き ☆
 5日(水) 植 土手の草刈り作業
 8日(土) 生 夜の自然パトロール ❖
 9日(日) 田 田の草取り、畔の草刈り
 雑 下草刈り ☆
 自 里山探検隊「夏の谷戸しごと」
 10日(月) 畑 さといもの草取り・土寄せ ❖
 12日(水) 生 初夏のカヤネズミ調査
 16日(日) 田 田の草取り ☆
 雑 土手の草刈り ❖
 19日(水) 農 梅干し作り(赤ジソ仕込み) ❖
 23日(日) 田 田の草取り ❖
 雑 雑木林の下草刈り ❖
 講座「湿地復元」☆

26日(水) 夏休み企画 子ども里山体験
 (公財) 鎌倉市公園協会協働開催

- 30日(日) 田 田の草取り
 雑 草刈りして水路整備 ☆

田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
 農：農芸班 自：自然遊び班
 生：生態系保全班 植：植物育成班

8月

- 2日(水) 農 梅干し作り(天日干し) ❖
 植 野草畑の手入れ
 6日(日) 田 田の草取り ❖
 雑 アズマネザサの刈り取り ❖
 7日(月) 畑 さつまいもの草取り・つる返し ☆
 9日(水) 生 水の生物の観察 ❖
 16日(水) 生 バッタの観察 ❖
 20日(日) 田 土手の草刈り、畔の草刈り ☆
 雑 アズマネザサの刈り取り
 27日(日) 田 畔の草刈り
 雑 刈払い機で草刈り
 28日(月) 畑 大根畑の耕し、長ねぎの土寄せ ❖

☆ 谷戸塾 ❖ 里山一日体験
 各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
 (農芸班、自然遊び班は、10時~)

夜の自然パトロール、虫の音を聞く
 18:30 山崎ロしいし前集合 20:30 頃まで

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時

ホームページ: <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

- 次号(会報 117号)は、2023年9月に発行予定
- 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647

9月

- 2日(土) 田 すがい作り
 保育士研修講座
 3日(日) 田 すがい作り ☆
 雑 刈払い機で草刈り ❖
 講座「谷戸の植物観察」☆
 4日(月) 畑 大根の種蒔き ❖
 6日(水) 農 麦わら細工(しおり作り) ❖
 9日(土) 生 虫の音を聞く ❖
 10日(日) 田 はさ作り(田んぼ横) ❖
 畑 草取り、草刈り ☆
 13日(水) 植 秋の野草観察 ❖
 17日(日) 田 はさ作り(もめんばたけ奥) ☆
 20日(水) 畑 大根の間引き、長ねぎの土寄せ
 生 秋のチョウと鳥観察
 24日(日) 田 稲刈り準備、畔の草刈り
 25日(月) 畑 かぶ・冬菜の種蒔き ❖

